

## 日本海西部・九州西海域マアジ(マサバ・マイワシ)資源回復計画の概要

(公表：平成21年3月31日)

### 1 資源の現状と資源回復の必要性

対馬暖流系のマアジ、マサバ及びマイワシは、東シナ海から日本海の沿岸・沖合の広域に分布する多獲性浮魚資源として、主にまき網漁業により漁獲され、資源状況はマアジが中位減少、マサバが低位横ばい、マイワシが極めて低い水準となっている。

マアジ及びマサバについては、近年、加入量は低い水準となっている中で、小型魚の恒常的な漁獲が継続されており、今後、安定的な漁獲をしていくためには、小型魚の漁獲を控えて、できる限り産卵親魚を確保していく必要がある。マイワシは資源水準が極めて低いため、資源保護に留意することが必要となっている。

### 2 資源回復の目標(対象魚種：マアジ、マサバ、マイワシ)

マアジ及びマサバについては、加入量が低い水準で推移しているため、可能な限り小型魚への漁獲圧を低減し、平成25年度の親魚量を現状の漁獲圧を継続した場合に比べ、それぞれ1万トン以上増加させることを目標とする。マイワシについては、資源変動が自然環境的な要因に大きく左右されることから、資源状況のモニタリングを行うとともに、混獲程度の漁獲に止める。

### 3 対象漁業

大中型まき網漁業(135 t型・80 t型)、中小型まき網漁業(20 t未満)

### 4 計画期間

平成21年度～平成25年度

### 5 資源回復のために講じる措置

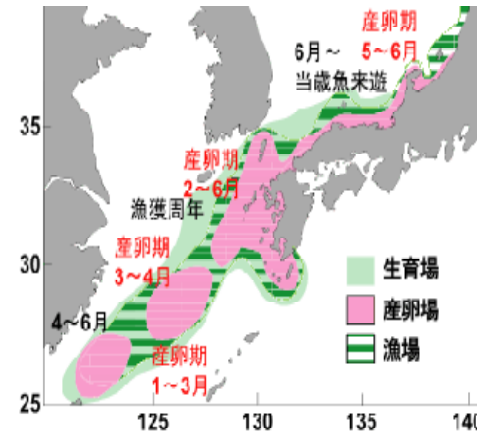
平成21年度から平成25年度までの5年間、マアジ及びマサバの小型魚保護のため、次の措置を講ずる。また、マイワシについては、混獲程度の漁獲に止めることとする。

#### (1) 大中型まき網漁業

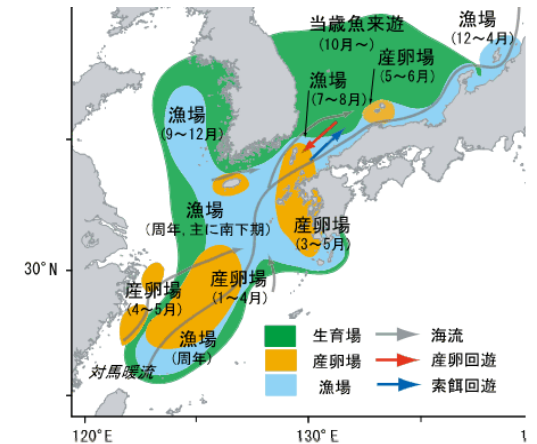
マアジ又はマサバについて、小型魚を主とする漁獲があった場合には、以降、集中的な漁獲圧をかけないよう速やかに漁場移動を行う。

#### (2) 中小型まき網漁業

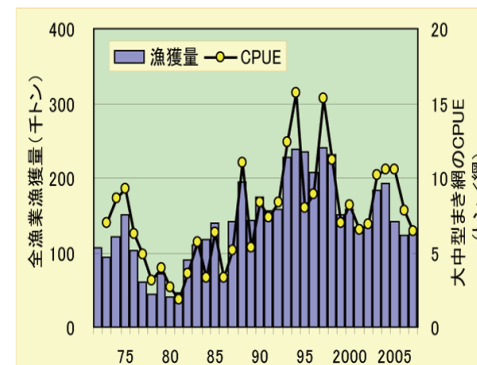
団体毎に、一定日数の休漁、水揚げ日数制限等の漁獲制限を行う。



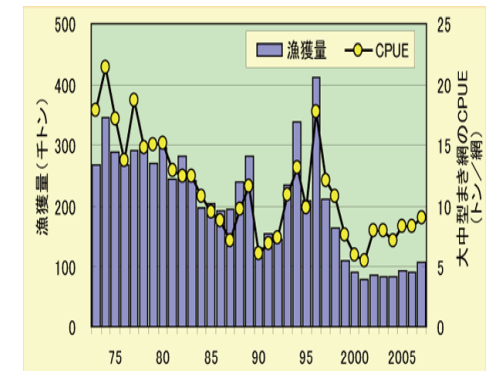
(図1：マアジ生活史と漁場形成)



(図2：マサバ生活史と漁場形成)



(図3：マアジ漁獲量)



(図4：マサバ漁獲量)

